

公立小野町地方総合病院の 整備に向けて

公益財団法人ヤマト福祉財団から20億円助成

公立小野町地方総合病院は、東日本大震災で被災した旧館を新築するため、震災後から国県などに対し、その早期復旧支援を要請してきました。

その結果、先ごろ福島県がまとめた「浜通り地方医療復興計画」においては、当病院は、阿武隈地域の住民の皆さんのための救急医療と入院医療の提供を図る医療機関として整備を支援するとされ、このたびは、ヤマト福祉財団から施設整備に向けた助成決定を受けることになりました。

現在のところ、現地において仮設の診療棟を設けるなどして入院・外来の診療を継続しながら施設整備を進め、平成27年春完成を目指すこととしています。

す。また施設整備にあたっては、医療需要や救急医療への対応や、災害時にあっても病院機能を失うことのない機能面の充実を図ります。

震災の影響は

昨年3月11日に発生した東日本大震災は病院施設にも甚大な被害をもたらし、新館（平成2年建設）には影響がなかったものの、旧館（昭和45年建設）は、天井落下や階段、廊下、病室などの壁に亀裂が入るなど、施設各所に被害が発生したほか、エレベーターなどの設備も損傷しました。

旧館は取り急ぎ必要最低限の修繕を行い、入院および外来診

療を行ってきましたが、今後地域医療の安定性を確保するためには、病院の建て替えが急務です。

地域医療の核として

公立小野町地方総合病院は、小野町・田村市・平田村・川内村・いわき市を構成する町村として設置された地域唯一の総合病院で、内科をはじめとした10科の診療を行う地域住民にとって必要不可欠な医療施設です。

さらに病院の入院・外来の患者層には原子力災害により避難区域とされている周辺の方々も多く、浜通りの復興のためにも当地域の拠点病院として安定した医療の提供ができる体制整備が急務です。

